



論点整理

第六章 豊かな学びにつながる 学習評価の在り方 ③

中核的な概念等との関係

- ◆ 中核的な概念等については、複数の内容事項に共通する主要な理解等を示すこと、従来と比較して包括的・一般的な表現とすることが想定される。
- ◆ こうした中核的な概念等の中には、単に知識として指導するだけでは理解が難しく、具体的な内容事項を通じて指導を積み重ねる中で理解に至ることが期待されるものがあると考えられる。
- ◆ 一方、明示的に中核的な概念等を指導することが有効な場合もあり、概念等と内容事項との間を行きつ戻りつしながら深い理解が得られると考えることもできる。
- ◆ 仮に中核的な概念等の理解について評価規準を設定する場合、焦点が不明瞭になるとの懸念がある一方、評価課題の工夫次第で理解を問うことも可能な場合もあると考えられる。



各教科等における中核的な概念等の具体的な粒度や示し方について今後検討していく中で、学習評価における取扱いについても具体的な整理を行っていくことが必要であり、今後、総則・評価特別部会において並行して議論すべき

自分の考えに^{こしつ}固執しない柔軟性をもつ

くんし てい りょう
君子は貞にして諒ならず。

(訳) 君子は常に正しいことを堅く守るが、^{ゆうずう}融通のきかない^{かたく}頑なさはない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）